

企業現場人材育成事業（インターン実習プログラム）

千吉良泰三

日韓国交正常化50年を迎えた2015年、今後の50年の日韓関係を担う若者の育成・交流が重要であることに鑑み、日韓産業技術協力財団・日韓経済協会は韓国の大学生を対象とした『企業現場人材育成事業』（インターン実習プログラム）を新規に立上げた。

本事業は、韓国の大学生を夏休みの期間を利用して、1ヶ月間、在韓日系企業で実習させ、企業人としての経験をさせることにより、日系企業の仕事の進め方やノウハウを学ぶと共に、日系企業の韓国に於けるCSR活動を理解し、知日派の学生を育てることを狙いとした。また、優秀な韓国の大学生を日系企業に紹介していくことも目指した。

本年度で4年目を迎えた本事業は、これまで延べ80社を超える在韓日系企業のご協力を頂き、140名の実習生を送り出すことができた。4年間で一人のリタイヤ者を出すこともなく、ほとんどすべての実習生は日系企業での実習で、企業人としての経験をつむだけでなく、自分たちの人生の貴重な示唆も得られ、感銘していた。また、一か月と短い期間ではあるものの、日本企業文化に触れ、日本についての理解を深めることもできた。すでに実習生の中で40名の学生が就職し、うち7割以上の実習生が日系企業に就職した。

今回、本年の実習生の感想と初年度の実習生でその後パーソルコリアに入社し、本事業と一緒に運営して頂いている金ミンジョンさんの感想もご紹介したい。

－ 研修概要 －

【オリエンテーション】



企業人としての心構え



雇用手続き

【企業実習】



実習の様子

【企業実習】



実習の様子

【フォローアップ研修・修了式】



成果発表



修了証の授与

「学んで考える「教育的」インターンシップ」

慶熙大学 貿易学科

權容祐（クオン・ヨンウ）

2018年 韓国住友商事株式会社

日本交換留学を通じて日本により興味深くなって、今度は日本の企業のことが知りたかった。去年、募集期間が過ぎてエントリーできなかった「日系企業インターンシッププログラム」を思い出した。今年3月からずっと募集のお知らせを待ち、エントリーし、結局合格した。しかも第一希望の韓国住友商事に配属された。貿易専攻で総合商社に興味があり、総合商社という概念が生まれた日本の総合商社を体験することは私にとっても貴重な経験になると思った。

このように教育を追求するインターンシップだとは思えなかった。インターンシップを経験した周りの友達のように雑業するつもりで初出勤したが、きちんと教育を受けてきた。全ての職員の方々が業務のみならず、これからの進路についても親切に相談に乗ってくださって、社内にインターンは一人だったにも関わらず、全然寂しくなかった。

営業の見学はとても印象的だった。理論は大学で学んだり、輸出入実務をしたりしたことがあるが、営業現場を経験したことはない。鉄粉が吹き飛ぶ鋳物工場、仁川港の物流倉庫、新素材生産企業や大手鉄鋼メーカーにも訪ねて、総合商社がどんな仕事をしているか詳しく理解できた。日系総合商社と韓国の企業、特に中小企業とお互いに共存しながら韓国経済に及ぼす肯定的な影響などにも考えるようになった。



本当に夢のような一ヶ月だった。つい最近までは普通の大学生だった私が、毎日スーツを着て都心へ出勤し、沢山の名刺をもらったほど沢山の人々に出会うことができた。今回のインターンシップに参加して良かったことは沢山あるが、その中でも、沢山の良い方に出会えたことが良かったし、多様な分野で多様な仕事をしていることも分かった。私自信が成長したと思うほどとても教育的なインターンシップだった。改めて今回のインターンシップを主管した関係者の皆様、良い場を作ってくださった韓国住友商事に感謝の気持ちを伝えたい。

忘れられない経験を作ってくれた 「日本系企業のインターンシップ」

韓国外国語大学 日本語通訳学科
イ・ムヨン
DISCO HI-TEC KOREA

ディスコという会社は

ディスコという企業は半導体の精密加工装置および技術を世界に提供する会社です。ディスコでしか生み出せない高度な技術を通じて顧客に価値を提供することを大切に考える会社です。



社長さん、インターン同期との記念写真

一か月間私は主に人事・総務部のお仕事をお手伝いしました。昔から人事・総務の仕事について興味があり、経験したいと思っていたので今回を通じて人事・総務部はどの業務を行っているのか把握することができ、実務的な仕事を学ぶことができました。

一つ一つが新しかったインターンシップ

インターンを進めば進むほど人事・総務のお仕事だけではなく勉強になった活動がもっとありました。大きく三つで一つは総務の業務、二つは技術教育、最後は毎日ひと気づきという文化でした。

まず、総務の仕事をお手伝いしながら、総務は社

員の働く環境をもっと改善し、サポートして行く部署だと気づき、人を支える仕事がやりたいという自分の働く上の軸とあっていると感じました。

また技術教育を受けられる機会を頂いて、現在の半導体業界の動向や技術について直接聞くことができ、この業界に興味を持つようになりました。勉強になった活動の中でも特に、毎日ひと気づき文化は新鮮でした。DHKの方々のように自分自身も働き方を段々進化させていく人として成長したいと思いましたし、最後にはDHKのFANになりました！

どこでも経験できないインターンシップの体験

1か月間の短い間でしたが、自分にとってDHKへのインターンシップは初めてのインターンシップなのでとても意義があり、大切な機会でした。さらに半導体業界、BtoB業界という文系の私が普段接する場面が全くない分野を勉強することができ、自分の視野ももっと広がったチャンスだったと思います。



教えてもらったメンターの方々

これを一歩として考え、他の日本系企業にもまた挑戦し視野を広げたいと思っています。これからも業界を制限せず、目標に向けて力を入れたいです。

「ただの体験ではなく、育成というインターンシップ」

ソウル市立大学 行政学科

金栄民（キム・ヨンミン）

日本航空 韓国支店

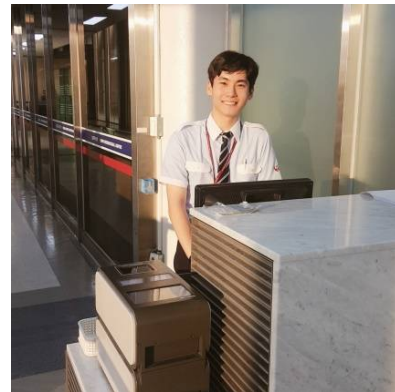
私は企業現場人材育成事業というインターン実習プログラムに参加させて頂きました。韓国の一般企業でも行っている体験型インターンシップとは違い、育成という名前に相応した貴重な経験でした。その過程を紹介したいと思います。

一ヶ月間、多様な部署から教育を受けさせて頂きました。事務所では広報、要約などの支援業務と営業業務を勉強しました。お客様との電話から要約を取ったり、日本航空をどうすればお客様と旅行社にアピールできるかを考えました。次には実際に金浦空港で現場実習をしました。旅客部では日本航空の制服を着て、お客様を迎え、自分でどうすればお客様により優しく寄り添えるかを考える機会となりました。整備と運航部では普段見ることのできない機内に入らせて頂き、飛行機がどう作動されるかを学ぶことができました。また、今まで携わることもなかった貨物部署からも教育受け、貨物が貨主から代理店、そして空港でどのように搭載されるかを体験し、業界を見る視覚を広げました。

人の旅行の最初と最後を担当するその様子が印象に残り、航空業界に関心深くなった私に非常にいい経験となりました。特に日本航空はシステムの、社員もお客様の安全を最優先にする姿が印象深かったです。一回、財政的に倒れましたが、それを乗り越え積極的にお客様に近寄っていることから、“だから、日本人に愛されてるんだ！”と気づきました。また、韓国の就職状況は中々激しいですが、日本航空の先

輩からの充実な教育、就職活動のアドバイス、暖かった応援は私にとって貴重な財産となりました。

最後に、私の興味を業界への挑戦まで発展させてくれた日本航空に感謝のお礼を言いたいです。そして、今後とも私のような韓国の大学生が現場力を得られるように様々な日本の企業の協力をお願い申し上げます。



「二つの立場」

檀國大学校 法学 卒業

キム・ミンジョン

2015年 パーソル코리아にてインターン

2016年～現在 パーソル코리아在職中

私は、韓国国内日系企業インターンシッププログラムに対して2つの役割があります。1つ目は、第1期実習生という役割で、2つ目はプログラム事務局担当者という役割になります。



私がパーソル코리아と縁を結ぶようになったのは、2015年韓国国内日系企業インターンシッププログラム志願し第1期生として選抜され、パーソル코리아で1ヶ月間実習後、その後正式に入社を勧誘され、現在パーソル코리아の社員・この事業の担当者になっています。

学生時代から日本語に興味があり勉強をし続けており、大学に入ってからはその興味を具体化させ、「日系企業への就職」という目標を立てました。このような目標を持っており、社会人になる前に大学生としてできる社会経験の活動を探していたところ、単純に労働力を提供するインターンシップではなく“教育型”である本インターンシップ事業に共感しながら、「日系

企業の企業文化の理解、韓国マーケットでの日系企業などを知る」という目標で参加しました。

実際インターン生として働きながら、1ヶ月間は本インターンシップの趣旨である“教育型”のお陰で毎日が充実した1ヶ月間でした。先輩達の配慮で細かい社会の基本的なマナーやルールを教えて頂き、また営業現場に同行し直接会社のビジネスを勉強する貴重なお時間を沢山頂きました。

その後同社で社員として勤務を始めるようになった時、インターンシップ経験が、業務のベースになってもう少し概念を持ち、現在の業務に取り組むことができ役に立ちました。

また本インターンシップ事業の運営に関しても、自分がインターン生として参加した経験があるので、何かを計画する際にはインターン生の立場として考えたりして、両方の立場からもよい方向へ向かえるようにしています。



仕事をする社会人として大きな枠組みを作ってくれたインターンシッププログラムにも感謝しながら、今はこのプログラムを運営する関係者として、常にこのプログラムに愛情を持って毎年成功的に進行することができるよう最善を尽くしたいと思います。